

一見して数多くあるように思えますが、外格は四格、内格は八格にすぎないので。外格は五行に分けるため数多く見えるだけです。前述しました三〇頁の「格局」についての見かたや順序を詳説しましょう。

一、強弱から考えて、外格にならないか？ と見ていきます。

この見かた、考えかたは、二者択一の原理から作り出されたもので、格には外格と内格しかないのですから、まず一方を仮に決めて見てしまい、そうでなければもう一方、とおさえるやり方です。

1、干合の変化干合があつたら、外格（化格）となります。

命中に二千の変化干合があつたら、強弱に関係なく外格（化格）となります。これはいちばん簡単な格です。

2、命式の中の十二支を見て一行得気格にならないか？ と見ます。

一行得気格（五種あり）は、格の成立条件が非常にうるさいのですが、

この人は、前世界青商会副主席をつとめ、文化学院観光系主任教授を務めた人です。

八字そのものは干関係がさほどよいとは思えませんが、忌神に対して日主が根がしっかりしている点と、行運がよいから、ここまでいったのでしょうか。

おもしろい、と言つては不真面目ですが、誤解された浮気問題から、奥さんが自殺未遂を起こしたことです。大学時代の女友達が結婚後にガンにかかったとき、代金二百萬元（日本円で千万円）の医療費を払ったということです。それを知った妻は自殺を図った、ということです。

小生が不真面目ながら、おもしろい、と言つたのは、この事実です。子の命式に、この点がずばりあらわれているからです。この八字は忌神の傷官が一干三支です。つまり忌神が強いということです。